

確定申告（タックスリターン）と会計年度

蟬本 睦

＜アメリカの会計年度＞

アメリカは1月から12月を会計年度とする企業が圧倒的に多く、年末に決算を行うケースが多くなり、必然、新年とともに、新しい年度をスタートする会社が多くなります。

この場合、企業としての確定申告の期限は、これまで3月15日でしたが、一部を除き4月15日となりました。また、アメリカでは個人もほぼ確定申告を行います。この締め切りも例外を除き4月15日であったため、今年は特に会計士の業務がこの4月15日を目掛けて集中してしまい、多くの会計士ならびに会計事務所が夜を日に継いで連日作業を行っていたようです。

Tax Return

この時期、テレビをつけても確定申告用のソフトウェアの宣伝が多く見られ、小売店舗の店頭でもクラウド型、デスクトップ型などのソフトウェアが大きく目立つようなところにディスプレイされていました。日本では、給与所得者は基本的には会社が天引きによる徴税、納税を代行するケースが多いのであまりピンとこないかもしれませんが、アメリカでは「タックスリターン」と呼ばれるこの時期、経費と所得を申告し、控除を申告することで、払いすぎたタックスが文字通り戻ってきたり、逆に追加で税金を納めたりと嫌が応にも税金に対する意識が芽生え、個人の税に対する意識が日本に比べて高いと思います。

＜日本の新年度始まる＞

さて、3月も終わろうとしているころ、日本のクライアント、取引先から「異動」なる挨拶が届き始めます。毎年ながら、あっとする瞬間です。日本では、3月が年度末で、4月1日から新年度という会社が多いと思いますし、新卒採用も4月1日から一斉に採用というのがまだまだ多いので仕方はないと思いますが、アメリカは、学校は9月が新年度ですし、会計年度は前述のとおり1月が多く、

新年が始まって、スピードが乗ってきているところに「異動します」というご案内を突然いただくと、とてもびっくりしてしまいます。見方を変えれば、こんな1年の途中に、一旦企業活動をリセットするようなもので、日本企業の競争力を弱めている一因ではないかと言うのは言い過ぎでしょうか？

＜休んでばかりの日本？＞

また、新年度始まってそうそうに、ゴールデンウィークなる大型連休がやってきます。アメリカから見ると日本は本当に休みが多いと感じます。日本は働きすぎという意識があると思いますが、祝祭日はアメリカのほぼ倍あり、また盆正月と、アメリカから見ると日本は休んでばかりだという印象があります。アメリカでは年末こそクリスマスでしっかり休みますが、年が明けて2日から一気にスタートを切ります。日本の場合は新年の雰囲気はかなり引きずり、そして年度末、年度はじめでなんだか企業活動が一時的にリセットされ、そしてゴールデンウィーク、なにか1年の前半はかなりもったいないというか、しっかりと働いていないのではないかと思います。

GW	27	28	29	30	1	2
	3	4	5	6	7	8

教育もしかり、日本がゆとり教育を行っている間に、アメリカでは上位校を中心にかんがりの質、量ともに詰め込み教育も行ってきますし、学年が進めば進むほど、膨大な宿題をこなさないといけません。大学生など本当に宿題が多く卒業するのも容易ではありません。

広島の皆様もぜひ、こういったマスメディアがこれまで伝えてきた、いわゆるアメリカの虚像というべき「働かない、ゆとり、個性尊重」といったイメージではなく、実際の姿に目を向けていただき、日本がかつて持っていた強みを思い出していただき、世界に冠たる企業を今後とも作っていただきたいと思います。